

I 組織の使命

圏域の産業および物流を支え、国内外の海上輸送網の拠点となっている「港湾」については、多様な機能が調和し、それらが連携する中で質の高い港湾空間を形成するため、秩序ある整備と適正な運営を図ります。

また、外貿コンテナ等の物流機能の拡充や、クルーズ船の受入体制の強化とともに、ポートセールスに努め、道南圏を後背圏とした流通や人的交流の拠点となる港の形成を目指します。

本市の総合交通体系の一翼を担い、地域経済・文化の活性化を図るうえで重要な「空港」については、航空需要に対応した施設の整備を促進します。また、空港機能の強化を図るため、国際・国内航空路線の拡充や、空港周辺地域住民の生活安定および福祉の向上に寄与するために、空港周辺の環境整備に努めます。

II 組織の基本方針

- 港湾については、国際観光・交流拠点の創造、豊かで活力ある地域社会と経済環境の創造などの多様な要請に対処するため、「賑わいと親しみあふれる活力ある函館港」を目指し、平成17年に改訂した港湾計画等に基づき、弁天地区の係留施設や緑地の整備、既存施設の改良・補修などを進めます。また、クルーズ船の誘致については、観光地エリアに近接する若松ふ頭および函館クルーズターミナルの優位性を生かし、更なる寄港数の増加を目指します。
- 空港については、コロナ禍前の国内線利用者数まで回復が図られるよう、空港運営会社や経済界と連携しながら就航路線のPRに努めるとともに、国際線の更なる再開、新規就航に向け関係機関と協議を進めていきます。

III 年度評価 総評

クルーズ船については、コロナ禍が明け外国船の寄港が再開し、若松ふ頭も本格供用開始となったことから、寄港回数は過去最多と並ぶ47回となり、港の賑わいが回復しました。

港湾については、弁天地区における国際水産・海洋都市構想の拠点としての周辺環境の整備のほか、既存施設の改良・補修を継続的に進めるなど、港湾機能の充実に努めました。

空港については、国内線の利用数では、コロナ禍前の約9割程度まで回復し、昨年度を上回る利用者数となりました。

また、国際線においては、台湾便が週10便まで回復し、香港便の季節定期便が就航したほか、グランドハンドリング不足に対応するため、航空会社の人員確保に要する経費も対象とした補助制度を創設しました。

今後におきましても、港湾機能の充実に努めるため、積極的なポートセールス活動を継続し、港湾貨物の集荷やクルーズ船の寄港増に努めるとともに、空港の利用を促進するため、関係団体と連携を図りながら、新規就航と利用拡大に向けて取り組んでまいります。

区 分	担当課	評価	評価の説明
1 港湾施設の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 弁天地区の港湾機能および緑地整備 ・ 既存施設の改良・補修等 ・ 榎法華港の機能向上 	 港湾課 港湾課 港湾課	 B B B	 ・ 岸壁や緑地護岸の改良工事を行い，国際水産・海洋都市構想の拠点としての周辺環境の整備を推進した。 ・ 既存施設の機能の維持・延命化を図るため，本港地区の西防波堤改良や道路改良，西ふ頭地区の岸壁等改良，中央ふ頭地区の橋梁補修，北ふ頭地区の道路改良等，港町地区のクレーン修繕，コンテナ蔵置場の舗装修繕などを行った。 ・ 既存防波護岸の改良整備を行い，榎法華港の機能向上を図った。
2 港湾の利用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ クルーズ船の受入れ拡大 ・ 港湾貨物の集荷強化，コンテナ航路の利用促進 	 港湾空港振興課 港湾空港振興課	 A B	 ・ 過去最多と並ぶ47回の寄港となった。 ・ 外貿コンテナ航路の休止は続いているほか，内貿コンテナ個数については，受入企業の施設不具合により減少した。
3 空港機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 空港運営会社との連携による路線拡充・再開 ・ 空港施設の整備促進 	 港湾空港振興課 港湾空港振興課	 A B	 ・ 台湾便が週10便になったほか，香港便の季節定期便が就航した。 ・ 滑走路端安全区域にかかる事業が進められた。